

**児童・生徒の現状・課題**

前向きに学習に向かう生徒は多く、個人差はあるが、自ら考えて挑戦し、学び続ける様子や、テストの結果から粘り強く学習を振り返る様子は定着されていない。また、自己理解が不足している生徒も少なくない。

**学び続ける力を育むための重点目標**

○次の授業に目標を立てて、学習内容や学習過程を振り返り、前向きに次の学習に取り組むことができるようにする。また、改善点や課題を生徒が自己改善できるように授業展開を工夫する。

※肯定的回答の割合(%)

児童生徒調査	1学期	目標(8月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	69.1	75.0	71.5
②学習した内容や方法、自分の力をどれだけ伸ばすことができたかなどを振り返ることができる。	64.7	70.0	75.1

教員調査	1学期	目標(8月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	87.5	90.0	88.9
②授業では学習目標の達成や学び方等について振り返る場面を設定し、生徒が達成感を味わったり、次の目標をもったりできるようにしている。	75.0	80.0	83.3

**具体的な手だて① 「見通しをもつ」:M**

単元や学習内容を授業の初めに示し、**見通し**をもたせ、前回の授業を振り返りから、本時の授業に前向きに取り組ませる。

**具体的な手だて② 「振り返りの場面」:F**

単元の途中や1時間の途中で**振り返る場面**を設定し、課題解決の手立てやアドバイスを示し、理解度や進捗状況を自ら確認し、修正しながら学習できるようにする。

**具体的な手だて③ 「自ら選択する」:S**

共に学習する仲間、学習する場所、ツールなど、学習内容や目的に沿って、**自ら選択**できる場面を授業内に設定していく。また、キュビナを活用し、**自ら選択**しながら学習し、基礎・基本の定着を計る。

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

**授業で「(見通し)(振り返り)(選択)MFS」を意識**

- ・授業改革研修の Classroom をつくり、日々の実践や意見などを書き込めるようにする。
- ・「選択の場面を工夫する授業」を工夫し、教員相互で授業を見合う機会をつくり、研鑽を深める。

**総括(5月)** 授業改革研修の話合いの中、自ら考え挑戦し、学び続ける、最後まで粘り強く取り組むという力が弱いという現状があがった。それは、受け身的な授業の中では、生徒自身に目標や目的がない状況であることや、自ら学び方を選択しながら学ばせる機会が少ないことに課題があると考えられる。そこで、日常の授業において生徒に選択させる場面を設定すること、そのために必要な手だてを教員がしっかり準備することを授業改革の芯に据えた。

**総括(1月)** 校内研修で M(見通し)F(振り返り)S(選択)を取り入れた授業を教員相互で見合う場面を設けた。生徒・教職員とも、上記のように調査の結果から、8月次の目標に②の内容は到達し、①の内容は目標に達していないが割合は増えているため、MFSを意識して取り入れた授業が実施されたことがうかがえる。研修時まとめの意見から、成果は「M:不安をなくし、何を頑張るかの意欲・F:大事なことの確認、自ら修正できる場面・S:自分の得意不得意に向き合いどんな力が必要か考える」、課題は「選択で:個々に合ったものを選ぶ力がなく(ある程度基本的な知識が必要)、苦手なことより得意なことのみを選択してしまふ、教員側の事前の準備が負担にならないような効率化、活動の選択では授業と評価の一体化がやや公平に評価することが難しくなる」という意見があがった。6つの選択の場面(課題設定・学習形態・場所道具・情報収集・振り返り・まとめ伝達)を意識し効果的に活用する場面設定が今後も望まれる。